

# 日商エレクトロニクス標準BPアセット リリースノートv2.0.0

---

日商エレクトロニクス株式会社

2023/05/18

# 目次

- ❖ 変更の概要
- ❖ 修正・追加ファイル
- ❖ 機能追加
- ❖ 不具合修正・その他
- ❖ 新機能紹介：「フローの生成」
- ❖ カスタマイズ済プロセステンプレートの修正方法

## 変更の概要

- ❖ Blue Prism6.6以降のファイル形式での提供に移行  
(=BP6.5以前の環境のサポート停止)
- ❖ 新オブジェクト「NEO - Blue Prism Xml」追加
- ❖ NET - プロセステンプレートに「フローの生成」ページを追加
- ❖ NET - メール送信オブジェクトテンプレートの利便性強化
- ❖ オブジェクト機能追加
- ❖ その他軽微な文言修正等

## 修正・追加ファイル

フルパッケージをインポートせず、修正の入ったファイルのみをバージョンアップしたい場合は以下のファイルを利用してください。

- ❖ BPA オブジェクト - NEEX - MS Excel.bpobject
- ❖ BPA オブジェクト - NEO - Blue Prism Xml.bpobject
- ❖ BPA オブジェクト - NEO - Windowsプロセス.bpobject
- ❖ BPA オブジェクト - NEO - コレクション.bpobject
- ❖ BPA オブジェクト - NET - メール送信オブジェクトテンプレート.bpobject
- ❖ BPA プロセス - NET - プロセステンプレート.bpprocess

## ❖ NEO - Blue Prism Xmlを追加

: Blue Prismのフロー内部形式であるXMLテキスト（BP6.6以降の形式）を操作する新オブジェクトです。  
実業務用プロセスの中ではなく、開発や運用用途にてデバッグ実行で動作させることを主に想定しています。

### ➤ 「コレクションステージの生成」アクション

コレクションの現在値を元に、そのフィールド名や値を初期値とするコレクションを生成できます。  
コレクションのフィールド名が未定義のままだと計算式の設定や検証が大変な場合や、  
プロセスの頭から実行しないと生成できないコレクションの内容を一時保存しておいて  
特定ページだけを何度もデバッグ実行したい場合などに有用です。

### ➤ 「ページ情報の抽出」アクション

BPからエクスポートした.bpprocess, .bpobjectファイルの内容（XML）を元に  
ページ名（アクション名）の一覧や入出力の一覧、ページ呼び出し関係、例外ステージといった  
ページ間の遷移関係を表す情報を全て表形式（コレクション）で抽出します。  
設計ドキュメントの作成やレビューに活用できます。

### ➤ 多数の「フローの生成\_〇〇」アクション

いくつかのパラメータを設定して実行することで、BPの頻出フロー（アクションや計算ステージの  
一連の組み合わせ）を生成します。※詳細別スライド

# 機能追加

## ❖ NET - メール送信オブジェクトテンプレート にエイリアスを使った送信機能を追加

：「メールエイリアス#〇〇」といった名前でBPの認証情報を作成し、そのユーザーとしてメールアドレス（複数可）を記載することで、設定した名前（#〇〇の部分）にメールを送ろうとする場合自動的に認証情報に記載したアドレスに送信される処理を追加しました。

単に関係者をまとめてメーリングリストのように使用することができるだけでなく、認証情報を用いているため、アクセス権制御を通して「このプロセスだけはこの外部アドレスに送信可」といった特殊な設定も可能となっています。※エイリアスに対し通常のアドレスチェックは行われません

## ❖ NET - メール送信オブジェクトテンプレート で許可されていない宛先指定時に自動スキップ

：従来のテンプレートではメール送信先に許可されていないアドレスが1つでも指定された場合、オブジェクトが即時エラーとなっていたため、1アドレス分の入力ミスなどに起因して誰にもメールが送られなくなり、ログを見なくてはいけなくなるといった問題が発生しがちでした。

新バージョンのテンプレートでは、許可されていない宛先が含まれていても、エラーにはならず問題の宛先だけをスキップ（ログにその旨を表示）するようになります。

これらの機能はテンプレートへの変更として提供されるため、既にメールオブジェクトを作成済みの環境にはそのまま取り込むことができません。必要な場合改めてテンプレートから作成し直してください。

（オブジェクト名の衝突を避けるため、現在のメールオブジェクトのアクションを全削除  
⇒テンプレートのページコピー＆ペースト ⇒ 環境変数名などの修正、の流れを推奨）

# 機能追加

## ❖ NEO - コレクションに「同上項目省略列の補完」アクションを追加

: 上のセルと同じ値を、空白や「同上」「〃」などで表現しているExcel表  
(を読み取ったようなコレクション) を元にその列の値を全て実際の値で埋めるアクションです。

## ❖ NEO - Windowsプロセス「終了待機(プロセス名指定)」アクションに、 一定時間終了しない場合のみ強制終了する機能を追加

: このアクションは、閉じる等の操作を行ったアプリが終了するまで待機する機能ですが  
「終了処理も実施」フラグをTrueにすると対象アプリの強制終了(kill) も実施します。  
従来、強制終了する場合は最初に強制終了してから完全に終了するのを待つ形でしたが  
一定時間待機してもアプリが終了しない場合のみ強制終了し、改めて終了を待機する設定を可能としました。  
デフォルトの待機時間は0なため、旧バージョンからこのアクションを使っているプロセス等は  
そのままの(終了する場合即座に強制終了する)挙動で 사용할 ことができます。

# 不具合修正・その他

## ❖ 提供リリースファイルをBlue Prism6.6以降の形式に変更

：内部形式の違いにより、NEアセット2.0以降のプロセスやオブジェクトは、BP6.5以前の環境にはインポートできません。BP6.5以前の環境では、2.0より前のバージョンのNEアセットをご利用ください。

## ❖ NEEX - MS ExcelにDX Portal版「MS Excel VBO」で追加されたアクションを追加

：NEアセットではBlue Prism6.4に付属していた「MS Excel VBO」を元に「NEEX - MS Excel」を開発していたため、以降のバージョンでExcel VBOに追加されたアクション等は利用できませんでした※1。NEアセット2.0ではBP6.6以降のファイル形式での提供となったため、最新のExcel VBO（Blue Prism DXにて公開）からほぼ全アクション※2を移植し、利用可能としています。

※1 Excel VBOはインスタンス管理の関係上複数併用できないため、利用するアクションは全て1オブジェクトにまとめておく必要があります。

NEアセットでは公式Excel VBOは利用せず、NEEX - MS Excelのみを利用することを推奨しています。

※2 既にNEアセットに存在したアクションと重複あるいはNEアセットよりも低機能なアクションは対象外となっています。

またBP6.6とBP6.10で「Get Worksheet」関連アクションに改善が行われましたが、互換性維持のためNEアセットには取り入れていません。

同じ改善を実施済みかつ、より高機能なNEアセット固有アクション「Get Worksheet As Preprocessed Collection」の利用を推奨します。

## ❖ NET - プロセステンプレート に「（開発用）フロー生成」ページを追加

：新規追加された「フローの生成」アクションを開発時に利用しやすいよう、ページが追加されました。それに伴い一部注記ステージを追加・変更しました。（フローの生成機能については詳細後述）



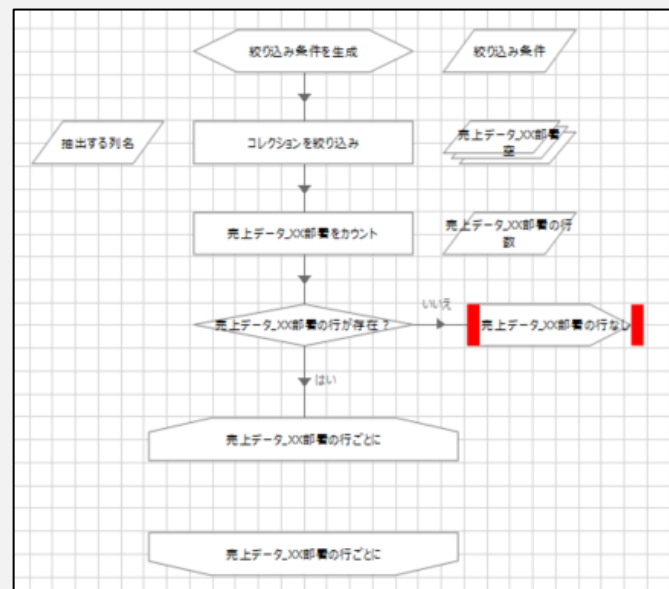
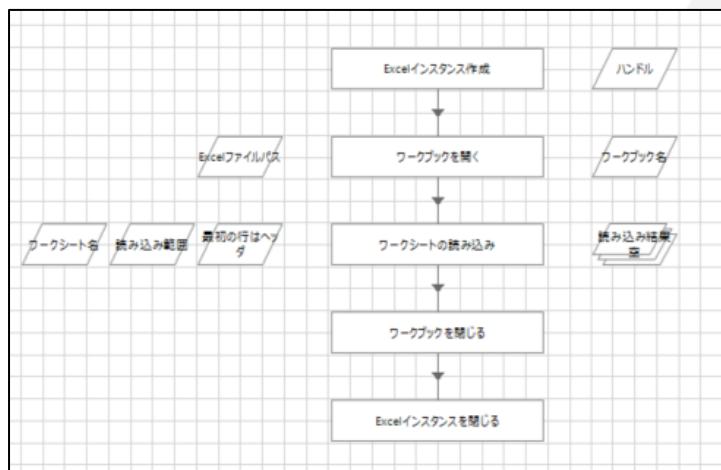
## 新機能紹介：「フローの生成」①

BPプロセスには多くの業務においていつも同じような流れではあるものの、プロセスによって細かい違いがあるためオブジェクト化するのが難しく、毎回手作業で（アクションステージをいちいち選んだり、既存プロセスから類似処理を探してコピーしたりして）作成される処理フローが存在します。

「フローの生成」は後者に近い発想で、予め準備されたフローのテンプレートをスタジオ上で呼び出せるようにすることで開発を高速化する機能です。

例①：Excelの起動～読み込み～終了

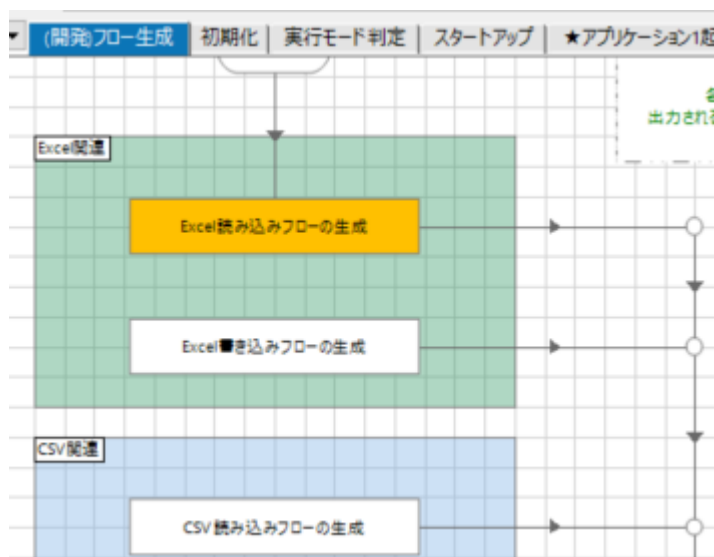
例②：コレクションから絞り込んだ内容でループ



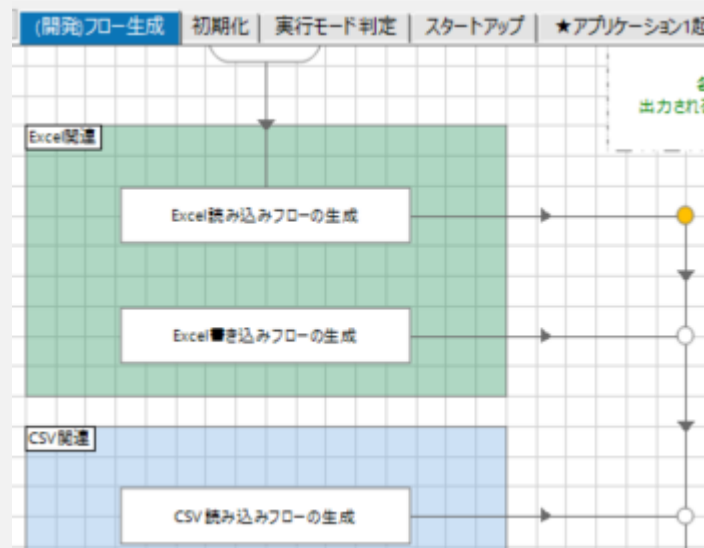
## 新機能紹介：「フローの生成」②

「フローの生成」はBPオブジェクトのアクションとして実装されているため、利用するには「NEO – Blue Prism Xml」から必要なフロー生成アクションを選び、そのステージをデバッグ（ステップオーバー） 実行します。

プロセステンプレートでは、「フロー生成」ページに予め各アクションのステージが配置されているため、アクションステージの作成は省略できます。



必要なフローを  
次のステージに設定し  
ステップ実行



## 新機能紹介：「フローの生成」③

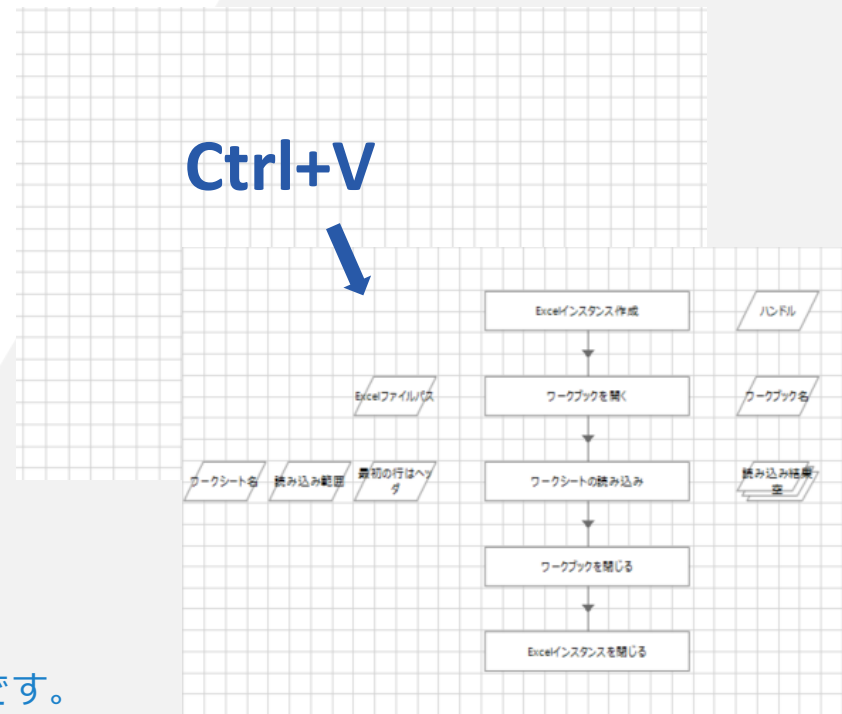
「フローの生成\_〇〇」アクションが実行されると、対応するフローのデータがクリップボードに保存されます。

プロセススタジオの任意の場所で「Ctrl+V」（貼り付け）操作を実行すると、フローを貼り付け可能です。

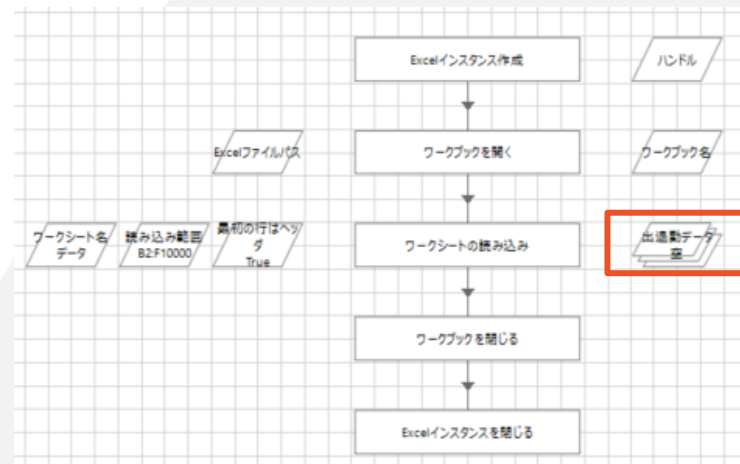
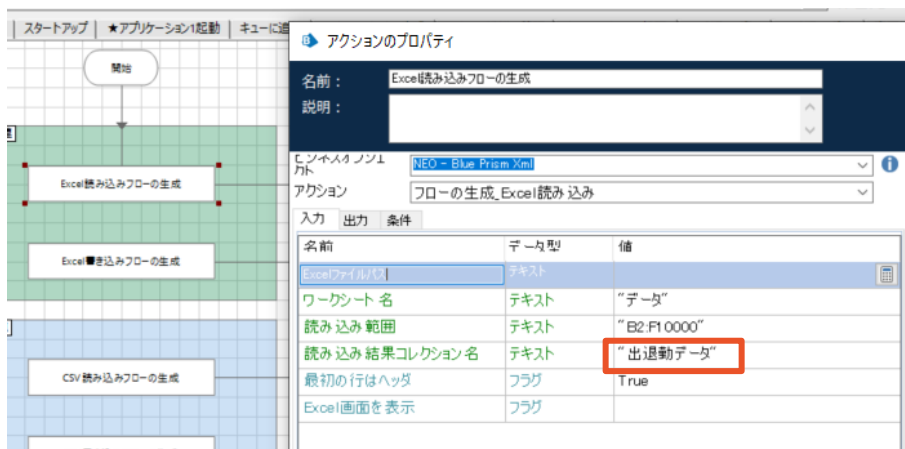
このフローは既存の別プロセスから類似処理をコピーしてきたのと同じように扱えるため、必要に応じて処理を変更・追加できます。

現在NEアセットで生成可能なフローは以下の通りです。

- Excel起動⇒読み込み⇒終了
- Excel起動⇒コレクション書き込み⇒終了
- CSV読み込み⇒読み込んだコレクションのループや転記
- CSV書き込み
- コレクション絞り込み⇒行数チェック⇒ループ
- メール件名や本文内のデータ（処理日時など）を置換



## 新機能紹介：「フローの生成」④



フローをペーストしてから細かくステージを開いて名前や初期値を修正する作業を無くすため、「フローの生成」系アクションの入力には一般的に変更可能性が高い部分を設定できるようになっています。

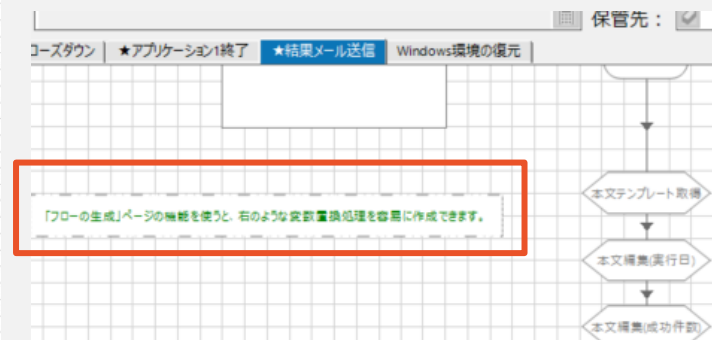
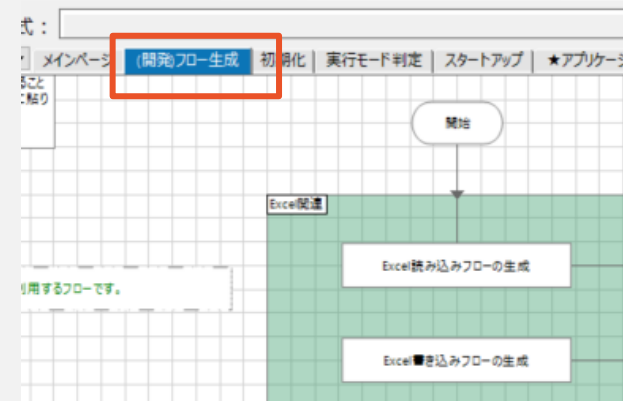
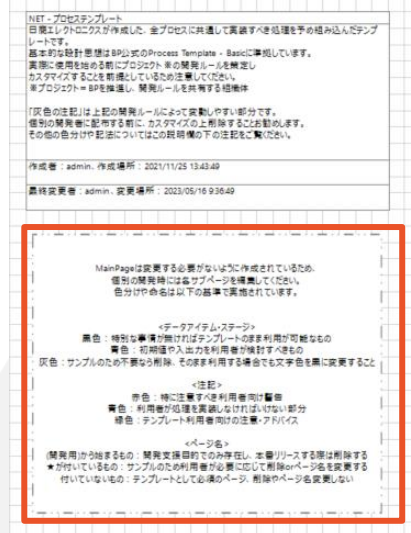
各種入力を設定してから実行すれば、その入力に従ってフローの一部が書き換わります。

入力しなかったパラメータについては、デフォルトの状態になるため必要な設定のみを行えば問題ありません。

# カスタマイズ済プロセステンプレートの修正方法(v2.0.0の修正)

既に環境に合わせたカスタムを実施済のプロセステンプレートに対し、新バージョンの修正点を適用する場合は以下の手順に従ってください。

- ①  
(開発)フロー生成 ページを新テンプレートからコピーして貼り付け
- ②  
メインページ説明下の注記ステージを新テンプレートからコピーして差し替え
- ③  
★結果メール送信 ページの  
左に追加された注記ステージを  
コピーして貼り付け

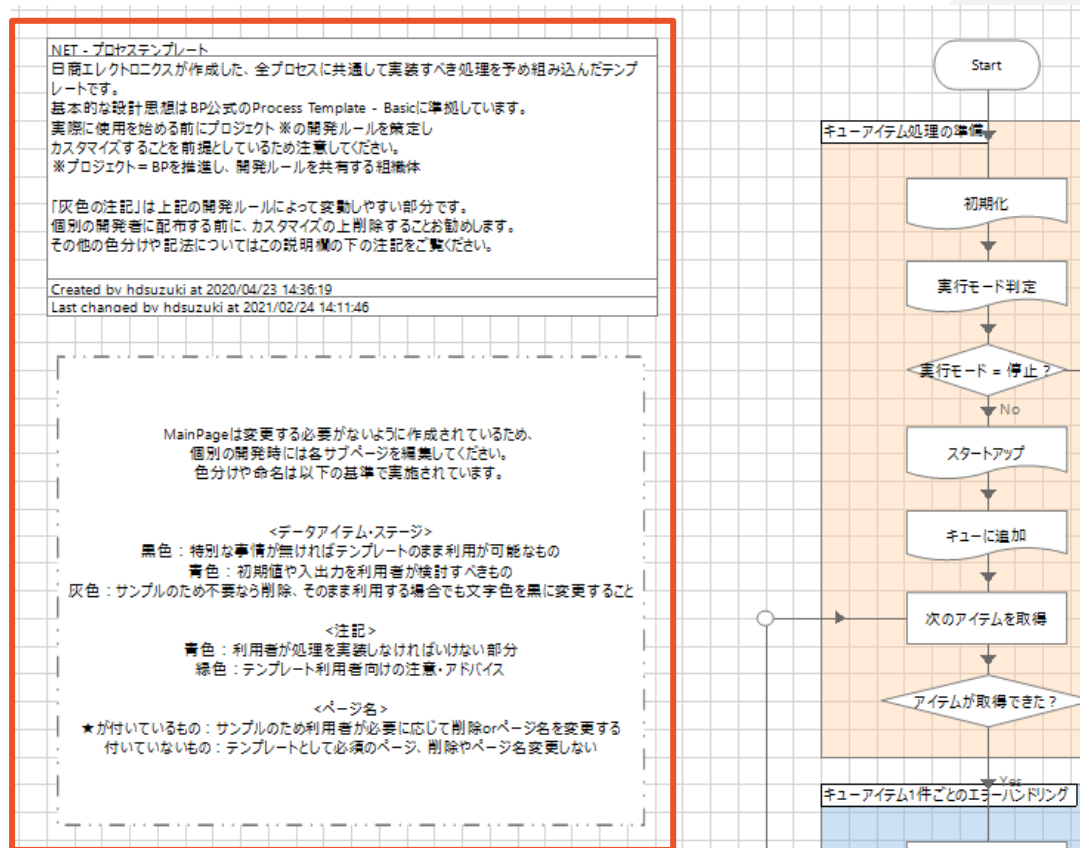


**V1.1.0以降からのアップデートの場合、  
V2.0.0のバージョンアップは以上で完了です。**

**1.0.9以前からのアップデートの場合は、  
以降のページもご確認ください。**

# カスタマイズ済プロセステンプレートの修正方法(v1.1.0の修正)

既に環境に合わせたカスタムを実施済のプロセステンプレートに対し、新バージョンの修正点を適用する場合は以下の手順に従ってください。



①  
メインページを開き、  
説明欄(左上)の内容を  
新バージョンのものに更新

②  
その下の注記ステージ  
(MainPageは～)  
をコピーして貼り付け

**V1.0.8以降からのアップデートの場合、  
V1.1.0のバージョンアップは以上で完了です。**

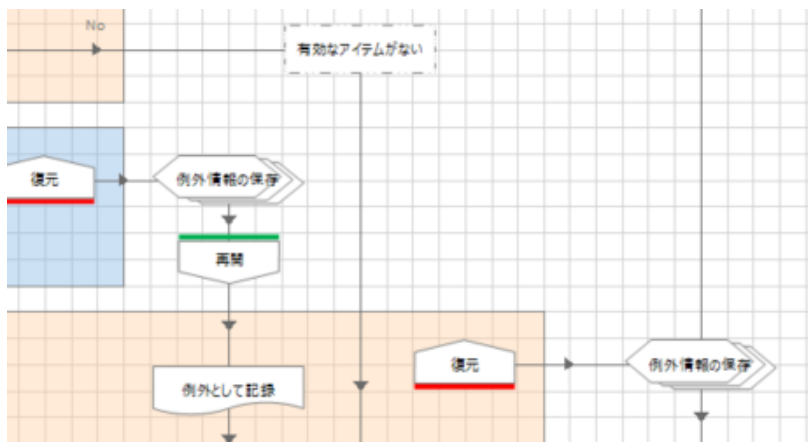
**V1.0.7以前からのアップデートの場合は、  
以降のページもご確認ください。**



# カスタマイズ済プロセステンプレートの修正方法(v1.0.8の修正)

既に環境に合わせたカスタムを実施済のプロセステンプレートに対し、新バージョンの修正点を適用する場合は以下の手順に従ってください。

- ①「メインページ」の「例外情報の保存」ステージ(※2つあります)をそれぞれ開き、3行目に右図のようにExceptionStage()を[例外情報.ステージ]に代入する式を設定する



複数の計算のプロパティ

Name:

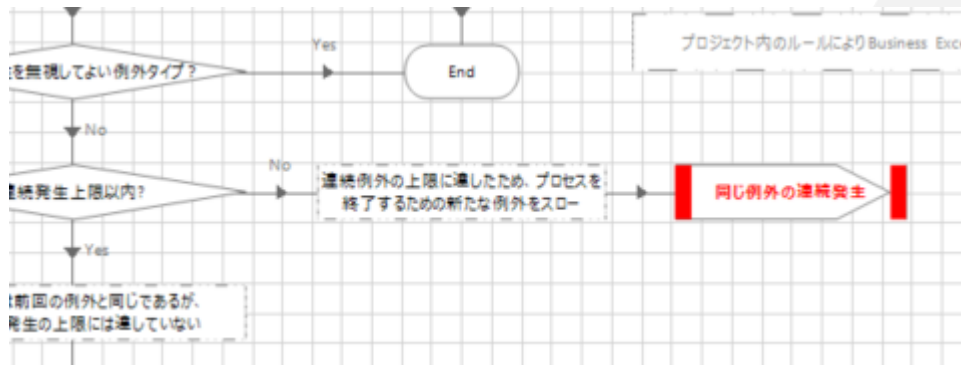
Description:

Expression	Store In
ExceptionType()	例外情報 タイプ
ExceptionDetail()	例外情報 詳細
ExceptionStage()	<input checked="" type="checkbox"/> 例外情報 ステージ

# カスタマイズ済プロセステンプレートの修正方法(v1.0.8の修正)

- ②「例外として記録」ページの「同じ例外の連続発生」例外ステージを開き、エラーメッセージを以下のように修正する

**[例外の連続発生上限] + 1 & "アイテム連続で " & [例外情報.タイプ] & "が発生したため、プロセスを終了しました。詳細: " & [例外情報.詳細]**



数式

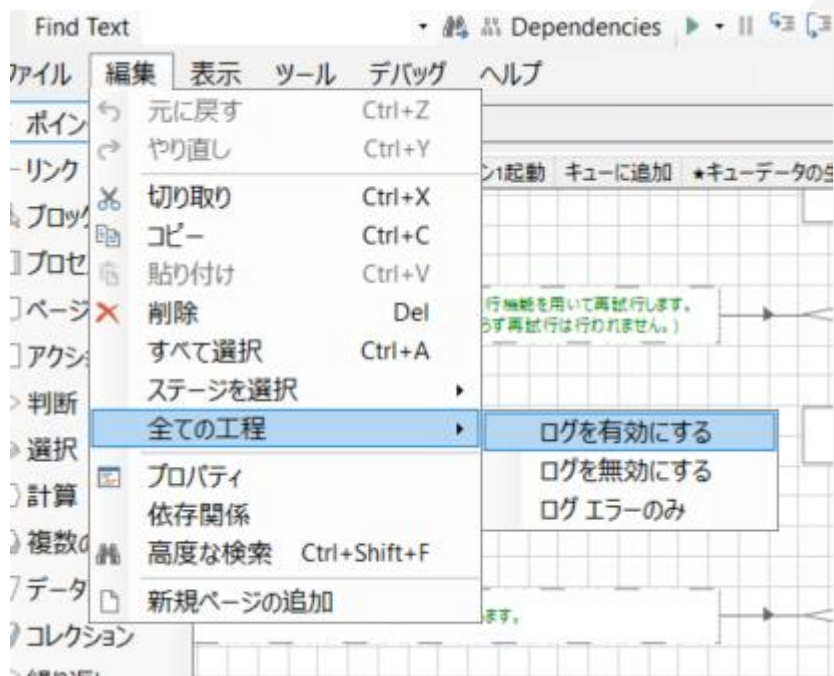
**[例外の連続発生上限] + 1 & "アイテム連続で " & [例外情報.タイプ] & "が発生したため、プロセスを終了しました。詳細: " & [例外情報.詳細]**

※連続で「前と同じ例外が起こったとき」発生する例外のため、上限回数+1アイテムがエラーとして記録されるのが想定される挙動です。

# カスタマイズ済プロセステンプレートの修正方法(v1.0.8の修正)

③左上メニューから「編集」>「全ての工程」>「ログを有効にする」を選択する

※プロジェクトのルールにより、プロセスでもログ出力するステージを限定している場合はそのルールに則って修正する形でも問題ありません。



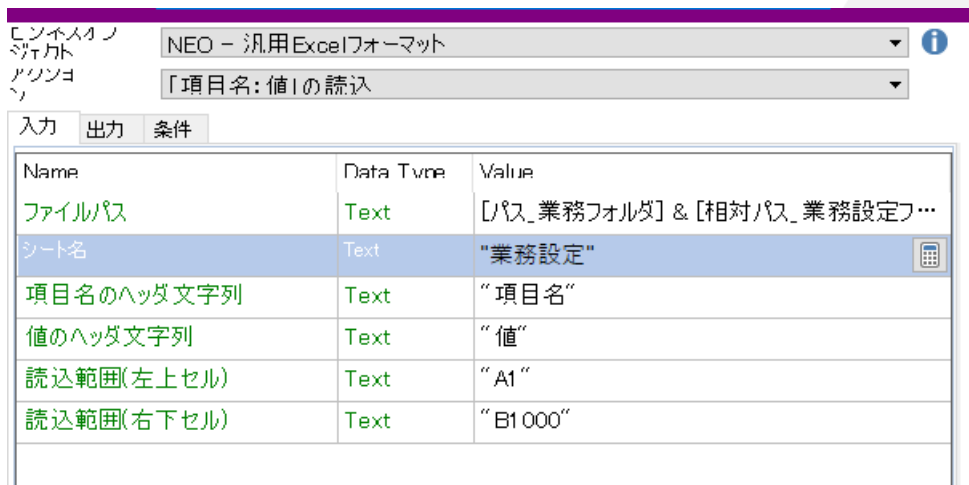
**V1.0.7からのアップデートの場合、  
ここまででバージョンアップ対応は完了です。**

**V1.0.7を飛ばしてアップデートした場合、  
以降のページもご確認ください。**

# カスタマイズ済プロセステンプレートの修正方法（v1.07の修正）

既に環境に合わせたカスタムを実施済のプロセステンプレートに対し、新バージョンの修正点を適用する場合は以下の手順に従ってください。

- ・「初期化」ページの「業務設定の読込」ステージを開き、「シート名」の入力値を「業務設定」に変更する



Name	Data Type	Value
ファイルパス	Text	[パス_業務フォルダ] & [相対パス_業務設定フ...
シート名	Text	"業務設定"
項目名のヘッダ文字列	Text	"項目名"
値のヘッダ文字列	Text	"値"
読込範囲(左上セル)	Text	"A1"
読込範囲(右下セル)	Text	"B1:000"

※設定ファイルの読込周りはプロジェクトごとにカスタムされることが多い部分ですので、既にこの部分がカスタムされていた場合には特に対応を行う必要はありません。